

令和3年度第43回原子力規制委員会議事録（抜粋）

○更田委員長

御意見はありますか。

○田中委員

二つあります。まず一つは16ページで、緊急時モニタリングに係る技術開発等とあるのですけれども、このようなモニタリングに係る技術開発というのは、これまではどこがやっていたのですか。

○村山長官官房放射線防護グループ監視情報課長

監視情報課長の村山です。

これまでに JAEA で技術開発を行っておりますけれども、必ずしも NEAT でなくて、例えば福島研究開発部門の方で新たなモニタリング手法を開発したりとか、NEAT の方でも航空機モニタリングの技術開発といった形で、JAEA の幾つかのところで行われていると認識しております。

○田中委員

ここで言っているのは、これまで福島でやっていたり等々あったのだけれども、NEAT で集約化してやるということを行っているのか、そうではなくて、これまでやってきたことで不十分な部分があるところについてモニタリングの技術開発をしようと言っているのか、どちらなのですか。

○村山長官官房放射線防護グループ監視情報課長

監視情報課長の村山です。

JAEA の分散して行われていた技術開発のリソースあるいは蓄積された知見を NEAT に結集させて、そこで引き続きモニタリング技術の高度化を図っていくという趣旨でございます。

○田中委員

結集化させて、集約化して、開発していくということになるのですね。

○伴委員

今の田中委員からの質問ですけれども、私の理解では、ここでポイントになるのは、NEAT を緊急時モニタリングの技術開発拠点として明確にするということだと思っていて、それによって目指すべきは、高度な専門性を持った人材を恒常的に輩出・育成することだと思うのです。だから、そういう体制をきっちり作っていく。そして専門性が維持されるようにしていくということだと思います。

そういう観点から見たときにちょっと気になるのが、ここの評価軸と関連する指標のところに書かれているのが、何か支援を行うとか研修を行うということばかりが書かれていて、これだと研修を何回やったといったことが成果とし

て上がってきて、そうではなくてむしろ本当にそういう高度な専門人材をきっちり維持する仕組みが作られているかというところが抜け落ちてしまうのではないかという懸念があるのですけれども、いかがでしょうか。

○村山長官官房放射線防護グループ監視情報課長

監視情報課長の村山です。

今の御指摘の点につきましては、資料の16ページの一番右側の欄の定性的観点のところ赤字で追加している部分、「原子力災害への支援体制を維持・向上させるための人的・技術的取組状況」という中で評価できると考えております。

○伴委員

それが、そう読むのですと言われればそこまでなのですからけれども、もっとそこを明確に分かるような形で書くべきではないか。むしろ重点はそこにあるのだとすべきではないかと思えます。

○佐藤長官官房核物質・放射線総括審議官

総括審議官の佐藤でございます。

伴委員のおっしゃる方向でまた考えてみたいと思えます。

○更田委員長

元々中長期目標は、本来であれば法人全体としてこういった目標に向かって役割を果たしますものだけれども、評価との関連からすると、どうしても法人の中の支分組織との関連、要するに法人全体として目標が達成されていればそれでいいはずだけれども、評価はどうしても暗にというか明にというか、支分組織との結びつきが生まれてしまっていて、例えばここで果たそうとしている役割にしても、NEATがどう考えるか。NEAT単体でそれを達成しようとするのか、実際問題としてはNEATがハブになって法人全体でその役割を果たしてくれればそれでいいわけなのだけれども、これはほかのところについてもそうだし、法人を超えてもそういう部分はあります。

これは伴委員とよく話をしていますけれども、高度被ばく医療でNIRS（放射線医学総合研究所）が指定はされているけれども、例えば緊急時に一定量のバイオアッセイみたいなもののニーズが発生したら、ここはJAEAでは核サ研（核燃料サイクル工学研究所）が登場してくる。結局そのときに向けてNIRSがハブになって、そのときに初めましてと名刺を出しては話にならないから、きっちり連携を取っておいてくれというのが我々の希望であって、もとより法人の中の話だから、それから安全研究も安全研究の部門にない分野については基礎工（原子力基礎工学研究センター）とかほかの分野と連携して役割を果たすわけなので、どちらを目指すのかということなのだろうと思えます。

ただ、評価になった時点で支分組織の評価と同等であるかのような見方がされてしまうので、その実態との間が難しいところです。

確かに NEAT に関して言うと、例えば RAMIS（放射線モニタリング情報共有・公表システム）は特に緊急時において信頼性というかきっちり役に立ってもらわないと困るわけだけれども、その RAMIS に対して JAEA がどのような役割を果たすのかということなのだと思います。

目標だから、どうしても短い文章で定性的ではあるけれどもね。

ただ、NEAT と言うとすごく大きな組織に聞こえるけれども小さな組織ですから、そこへ体制強化を望むというのは打ち出していくことなのだろうと思います。

これをどうしようと言っているというか、今、佐藤審議官はもう一回出してきましたと言っているのか、それとも。

○佐藤長官官房核物質・放射線総括審議官

総括審議官の佐藤でございます。

本日、規制委員の皆さまから御意見をいただいたもので、事務方で成案が必要だということであれば改めてということですが、この案でおおむねよろしいということであれば、例えば伴委員から今いただいた御意見については更田委員長の御意見も踏まえて、NEAT が中心となって体制を強化するとか、そういった書きぶりもあるかと思いますが、いずれにせよ、まだ御議論いただいて、御意見をいただければと思っております。

○更田委員長

そういう意味で言えば、この安全研究にしても防災にしても、人材の部分はどう書くかですね。できるだけ具体性を持たせたいけれども、相手が人材であるだけになかなか具体性を持たせようがないという部分はあるのです。

○伴委員

ですから、この書き方で絶対に駄目だということではないのですが、私の念頭にあるのはこの JAEA ではなくて、QST（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構）の評価のときに人材育成のところの読み方が人によって違っていた。もっと言うと原子力規制庁と文科省（文部科学省）で違っていたみたいなのころがあって、その辺で当の QST 自身もどう書いたものかと非常に悩んでしまった。そこに上がってきたのが、結果として研修を何回やりました、去年より何回増えましたみたいな、それは不毛だなと思うのです。だから、そのようにならないようにしてほしいということです。

○更田委員長

でも、ならないようにするにはどうしたらいいだろうか。おっしゃることは分かるけれども、ならないようにすると言っても難しいです。

○伴委員

先ほどの人的・技術的取組状況というところで読むのですということであれ

ば、それがこの評価機関において徹底されればそれでいいのだとは思いますが。

○佐藤長官官房核物質・放射線総括審議官

総括審議官の佐藤でございます。

まず今、QSTのお話がありましたけれども、QSTの場合は現行の中長期目標の書き方が評価しづらい目標設定、いわゆるカテゴライズ、分類の仕方だと思います。したがって、本日はJAEAをお諮りしていますけれども、できるだけJAEAの評価が、目標を設定し、原子力規制委員会共管部分については間違いなく原子力規制委員会がしっかりと明らかにぶれないように評価できるような形、いわゆる物差しはしっかりやっていきたいと思っています。

その上で、この目標を踏まえた具体的な内容、評価の仕方は、もちろん本日の指標もございまして、この後、来年の春に向けてJAEAが中長期計画を作成することになりますので、その中で当然計画もこの原子力規制委員会の中で御審議いただくこととなりますので、その場で御意見をいただくこともあるかと思っております。

○更田委員長

ちょっとつまらないことだけれども、別添1は日付のない文書だけれども、いつの文書なのですか。

○遠山長官官房技術基盤グループ技術基盤課長

技術基盤課の遠山です。

本年8月の文書です。

○更田委員長

ほかのところを読むと8月だろうなとは思っているけれども、どのような意図なのか、いつの時点のものかというのがない。

これが別添3の冒頭に出てくるように、現行と次期で目次みたいなものではあるけれども、基本的にJAEA全体が目指すものを数行に示すということなのだと思います。これはもう決まったこととして前へ進むわけですね。

○遠山長官官房技術基盤グループ技術基盤課長

技術基盤課の遠山です。

はい、そのとおりです。ただし、これはまだ具体的な目次のような形にまではなっていないという段階でございます。

○更田委員長

東京電力福島第一原子力発電所事故の対処に係る研究開発にしても、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉に向けた取組の着実な推進と、意味は結構違いますね。

原子力の基礎基盤研究と人材育成、正にこの法人そのものみたいなことは今、どうなるかという、研究開発や人材育成に貢献するために必要なプラットフォーム

オーム機能の充実に移るのですか。それとも、多様な研究開発の推進によるイノベーションの創出。結構違って見えますね。

これは主務大臣の下で議論があってということなのだろうとは思いますが。ただ、先日 JAEA の理事長との意見交換の際にも話題に上りましたが、規制支援以外のコンテキストで議論になったもの、例えば実施主体として研究所廃棄物に関する取組を進めてほしいということと、利用実態のない核燃料物質の集約管理等に関しても、規制当局が言うことではないのかもしれない。規制支援の範疇に入るものでは全くないけれども、ただ、これによって多くの受益者が生まれるということをしかりどこかで位置付けられればいいなと思います。

だから、規制支援の輪郭を曖昧にしないことが重要で、今の集約管理等などは規制支援とは別物できちんと整理されるべきだと思います。

○田中委員

今、更田委員長がおっしゃったことに若干関係するのですが、2 ページ目の共管部分以外への意見ということで、別紙 3 について三つ意見を言っていて、次期中長期目標の策定に当たって盛り込むべきと考える事項というのがあるのです。このような意見を言って、意見を文部科学省、経済産業省に伝えることとすると書いているのです。意見を伝えて、その後、原子力規制委員会としてはこれをどのように見ていけばいいのですか。意見を言った段階で全然盛り込まれていなかったらどうするのか、その辺について先が見えないのです。

○更田委員長

たまたま原子力規制委員会は議論をいつも外でしているから目立つけれども、不要な核燃料物質の集約管理等などは、メインの声は大学や研究機関等にあるわけで、平たい言い方をすると田中委員や山中委員の元職みたいなところ、主に文科省系にいっぱい何とかしてくれという声があるはずですが、それが表で語られる仕組みがないのです。それから、それぞれの委員の御経験も踏まえてということなのかもしれないけれども、原子力規制委員会は代わって言っているのに近いところがあると認識しているので、これは JAEA に対する要求ではないし、もっと言えば頼む筋合いの立場ではないのです。

様々なところから湧き出しなどがあるようだと、湧き出しに規制当局が対処するのかというと、管理をしているという観点、それから SG（保障措置）との関連等があるからということで湧き出し等に対処している立場ではあるけれども、そういうコンテキストの話ではないですね。逆に言うと、それが達成されているかどうかを見る立場でもないと言えないのだと思います。

ただ、JAEA ならば今の体制でもう既にできることがあるので、できることから始めたらどうですかということだろうと思います。

緊急時モニタリングが書かれているけれども、モニタリングという点あるい

はスキルや必要な能力という点で重なる部分があるのだらうと思っているのですが、福島地域のモニタリングに関しては原子力規制庁、原子力規制委員会も継続的に行っているわけです。この二つの関係はどうなるのですか。

○村山長官官房放射線防護グループ監視情報課長

監視情報課長の村山です。

福島地域でのモニタリングは、もちろん事故は終わっていないわけですが、モニタリング自体は平常時的な形でやっている状況です。それに応じて、例えば海底の泥を自動で無人船で取るとか、光ファイバーを使って面的に地上で測るとか、いろいろな研究が行われていると承知しております。

一方で、NEAT あるいは緊急時モニタリングで必要となってくるのは、緊急時に迅速に展開できるようなモニタリングということで、モニタリングの方向性や研究の方向性ないし発想は若干違ってくるのではないかと思います。ただ、そういった新しいアイデアで測定すること自体については共通ですので、応用できるのではないかと考えております。

○更田委員長

福島地域のモニタリングというのは、今後も決してその重要度が小さくなるわけではなくて、拠点の設定に伴って、拠点並びに拠点周辺におけるモニタリングのニーズ等は決して下がっていないと思うのです。それに対して、JAEA がどのような役割を果たそうとしているのかというのは、これも共管部分ではないかもしれないけれども、ただ関わる場所でもあるので、関心のあるところです。

目標だから法人全体でと言うのだけれども、いたずらに勢力が分散してしまわないようにとは思いますが。ただ、これは法人経営の方の話ですね。

どうでしょうか。

○伴委員

私は先ほども言いましたように、この書き方では絶対に駄目だと言っているわけではないので、もしほかの委員から特に修正の要求がなければ、取りあえずこれでよしとして、その代わり佐藤審議官が先ほど言ったように、きちんと評価の軸がぶれないようにしてほしい。そこだけしっかりしていただきたいと思えます。

○更田委員長

なかなかこれでいいとすっと落ちるところにはきっと行かないのだらうと思うのです。

11月下旬ですか。

○遠山長官官房技術基盤グループ技術基盤課長

技術基盤課の遠山です。

そのとおりです。JAEA 部会でまた外部の先生の意見を聴きたいと考えていま

す。

○更田委員長

本日の時点においては、これでもって部会に臨むことを了承した上で、直前には言わないけれども、何かあったら言うからということにしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

(首肯する委員あり)

○更田委員長

では、その旨で進めたいと思います。ありがとうございました。